

H22健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・事業実績については概ね計画通りに進捗していますが、路網整備や利用間伐については単年度事業の実施を常に優先する部分最適化の傾向が顕著です。このため、次年度以降の事業計画との整合性が十分に取れておらず、プロジェクト全体として最適化を図る姿勢に欠けます。今回のフォローアップ委員会によるアドバイスを参考に、森プロ実施の趣旨を今一度熟考しプロジェクトを実践して下さい。

◆成果に関するアドバイス

・間伐実施の目的は、残った木の生長を促すことにありますが、今回の施業地では、残存木の周りにその生長を阻害する妨害木が数多く残っていることが確認されました。選木実績改善のため、研修機会を新たに設けるなどして技術向上に務めて下さい。

・適正な選木の結果、バランスの悪い部分(部分的な林内空間)が出来ることは、一定度、止むを得ないと思慮しますが、「緑の量＝生長量」であることを踏まえ、必要以上に無駄な林内空間を創出することは木材生産にとっても損失となることを常に意識して下さい。

・下層木の生長を阻害する林床の笹の繁茂を抑制することが期待できるため、場合によっては素性の悪い木であっても敢えて残すことを検討して下さい。

・効率性を最優先に考えた高密度路網配置は、健全で豊かな森林づくりにとって好ましくありません。可能な限り林地の減少を防ぐことを念頭に置いた路網配置に取り組むことを期待します。

・作業道開設では、地山の傾斜が緩やかな棚地形の利用や、必要最低限の開設延長、縦断勾配もできる限り緩やかに設定するよう心がけて下さい。

・丸太組の施工方法に誤りがあります。丸太に掛かる荷重をしっかりと分散させるため、最下段の丸太は必ず地面に接するよう施工して下さい。

◆効率性に関するアドバイス

・トラックの進入可能な山土場を確保することが困難という理由により、フォワーダでの小運搬を伴う作業システムが決定されたとの説明がありましたが、低コスト化を志向する以上、当該施業地内のみならず周辺森林においても山土場適地の探索が必要不可欠です。さらなる努力を期待します。

・そもそも木材の積込みに何分、フォワーダの走行に何分と言ったように、㎡あたりのコストを把握していないことは理解に苦しみます。林業機械のレンタルコスト、人間のコスト等をきちんと計算したうえで、作業システムが真に合理的、合目的であるかどうかを判断して下さい。

・本来、まとまったエリアでの森林整備には、複数年の視点で実施内容(時期、場所等)を予め決定しておくことが必要です。徐々に隣接地が事業地として確保されていく事態を避けるため、積極的に周辺森林を取りまとめてから一体的に森林整備するよう心がけて下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・後日の問題発生を懸念して所有境界に路網を配置した意図は評価できます。他方で森林全体のことを考え、より良い場所へ路網を整備しようとする努力は必要です。引き続き、森林所有者にとってもメリットのある森林づくりに取り組んで下さい。

◆発展性に関するアドバイス

・該当無し(特段の言及無し)

◆総括に関するアドバイス

・我々には、先人が作った森林を受け継ぎ次代へと伝えていく責任がありますが、そのためには必要な知識や技術を得る努力が欠かせません。しかし技術は知識が無ければ活用出来ません。森林づくりに関して一層勉強されることを望みます。

・コストに捕らわれて森林を作ろうとせず、現場と事務所がもっと話し合いの場を持ち、森林が財産として評価される三方良しの仕組みづくりを期待します。

◆フォローアップ委員会の開催状況

平成22年12月20日

日時：平成22年10月28日(木)
場所：中津川市福岡柏原地内
参加委員：三島 喜八郎 岐阜県森林組合連合会 代表理事副会長
篠田 成郎 岐阜大学総合情報メディアセンター 教授
湯浅 勲 日吉町森林組合理事兼参事
対象：中津川市森林組合



プロジェクトの概要説明



林内土壌と保水の関係
についてアドバイス



選木方針の不明確さを指摘(隣接木同士
が生長を阻害)



森林づくりに関するマクロ計画
の必要性についてアドバイス



林内に残置された間伐材



丸太組施工実績の改善
点について指導



路面排水の不備補完のため
自力で追加施工した横断溝



路網レイアウトの考え方
についてフォローアップ

H22健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会

委員長 三島 喜八郎